

新型コロナ5類移行 「1~2週間猶予ほしかった」GW直後に苦言も 千葉大病院 猪狩 英俊感染制御部長

5/1 千葉日報



新型コロナの感染症法上の位置付けが5月8日に5類に移行することが正式に決定したことを受け、千葉大病院（千葉市中央区）の猪狩英俊感染制御部長（60）が27日、千葉日報社の取材に応じ「いずれは移行する必要があった」と評価しつつ「感染者が増えると予想されるゴールデンウィーク（GW）明け直後ではなく、病院の体制を整えるためにも1~2週間ほど猶予があってもよかったので

は」と苦言を呈した。

猪狩部長は、ワクチン接種者の増加やウイルスの弱毒化などから「現在多くの方がマスクを外しても問題はない」との認識を示した。マスク着用率の高さもあって、あす29日から始まるGW後に感染者が増えるとしても、急増する恐れはないと予想する。

一方で重症化リスクの高い高齢者に会う場合や人が多く集まる場所に出向く際などは、マスクの着用など基本的な感染対策を推奨。「コロナは存在したまま。マスクが不要になるわけではない。感染拡大を抑制しつつ日常を取り戻すことも必要。日常生活と感染症対策のバランスを大切にしてほしい」と呼びかけた。

新型コロナ「5類変更」どう考える？ 千葉大病院長「経口薬の普及あってこそ」 ワクチン接種加速も

2022年8月2日千葉日報

新型コロナウイルスの感染症法上の位置付け見直しについて、千葉大学病院の横手幸太郎院長は1日の会見で、「今後必要だが、第8波に向けて考えること」と現時点での変更に関する慎重な姿勢を示した。

感染第7波が拡大するなか、保健所の負担や医療逼迫（ひっばく）の低減などにつながる可能性があり、県内自治体の首長からは見直しを求める発言が相次いでいる。

「2類相当」から「5類」変更の条件として横手院長は「より高いワクチン接種率や、経口治療薬普及があってこそ現実味を帯びる」と指摘。同病院の猪狩英俊感染制御部・部長は「患者の全数把握で実態が分かるからこそ、対策が打てる。『2』か『5』か安易な

判断はおかしい」とより否定的な立場を示した。

同病院は、第7波の拡大に伴う県病床確保計画の「フェーズ3」引き上げなどを受け、7月末からコロナ診療の体制を強化し、8月は「コロナ対応強化月間」に指定。コロナ病棟への応援人員を確保するため1病棟を閉鎖。一般病床稼働率を80%として20~40%引き下げ、通常診療にも一部制限をかけている。



千葉大学病院の横手幸太郎院長

